

合同会社 DMM.com



サービス提供を支える大規模仮想環境全体の可視化をクラウド ホスト型管理ツールで実現



製品 & サービス

- Cisco Intersight
- Cisco Unified Computing System B シリーズ
- Cisco Unified Computing System C シリーズ
- Cisco UCS Manager

課題

- 運用仮想環境が増大し、一元的な可視化に課題

ソリューション

- Cisco Intersight による一元的な監視と障害発生箇所の速やかな特定
- Cisco Intersight による予兆の把握とプロアクティブな障害対応

結果～今後

- 全体監視の一元化により、お客様サービス提供の安定化に貢献
- マルチクラウド、ハイブリッドクラウドの推進

合同会社 DMM.com (以下、DMM.com) は動画、ゲーム、英会話など 40 以上のサービスを展開し、会員数 2,900 万人超、月間 PV 数約 25 億を誇る国内有数のコンテンツ プロバイダー企業です。サービスを支える基盤には Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) が約 600 台稼働し、Cisco UCS Manager による管理により構築から運用における工数削減に大きな効果を上げています。今回、DMM ではさらなる管理の一元化を目指して Cisco Intersight を導入。大規模な仮想環境を俯瞰的に可視化することによって速やかな障害箇所の特定とプロアクティブな対応が可能となり、お客様サービスの安全な提供に効果を発揮しています。

Cisco Intersight は大規模な仮想環境全体を可視化し障害箇所の速やかな特定に有効であるのに加え、予兆の把握でプロアクティブな対応の実現というメリットがあります。

—— 合同会社 DMM.com インフラ部 サーバインフラグループ 高橋 尚史 氏

DMM.com は動画、ゲーム、英会話など 40 以上のサービスを展開。会員数 2,900 万人超、月間 PV 数約 25 億を誇る国内有数のコンテンツ プロバイダー企業です。2017 年 4 月に六本木へのオフィス移転、2018 年 5 月にインフラ部の組織変更が完了。新オフィスのエントランスには壁一面に滝や動物のデジタルアートが広がり、ジャングルをコンセプトに緑豊かな植物で彩られるなど、クリエイティブ心が刺激される空間に。ここから新たなサービスが続々と生み出されています。

同社の多様なサービスを支えるインフラは 2015 年から Cisco UCS を導入。その後も拡張が続き、現在ではサービス仮想基盤として Cisco UCS B シリーズが約 400 台、ゲームプラットフォームとして主にベアメタルサーバとして活用される Cisco UCS C シリーズ 約 100 台×2 が稼働中です。

DMM.com インフラ部 サーバインフラグループの高橋尚史氏は Cisco UCS 採用の経緯とその効果について、次のように話します。

「少ない人員で構築、運用することと、お客様に提供するサービス基盤であることから重視したのはシンプル性と管理性です。配線が少ないのは構築、運用保守のいずれにおいてもメリットですし、ファブリック インターコネクト (以下、FI) はネットワーク担当との責任分界点が明確な点も良いですね。



合同会社 DMM.com
インフラ部 サーバインフラグループ
高橋 尚史 様



合同会社 DMM.com
インフラ部 サーバインフラグループ
伊藤 真一 様

特にゲームはリリース サイクルが早く次々とタイトルがリリースされるため、用途変更の際にオンサイトでの設定変更が必要なくなった点はありがたかったです。Cisco UCS であればケーブルリングさえ完了すればあとはプロファイルの付け替えだけでタイムリーに展開できます。Cisco UCS は従来型 IA サーバと比較して構築工数、パフォーマンス、導入コストなどさまざまな点において優位性を感じました。弊社はサービス基盤に対し 24×365 の体制を敷いていますが、展開後は障害発生時も駆け付けの必要がなくなり、保守工数が大きく削減できました。」

課題

これまで同社はサーバインフラを Cisco UCS Manager により運用管理してきましたが、管理ボリュームが増大するにつれて新たな課題を感じていたといいます。高橋氏は次のように話します。「従来に比べ、Cisco UCS によるネットワークやストレージ アクセスおよび仮想環境の統合と、管理ツール Cisco UCS Manager による管理性が向上しましたが、サービス基盤として仮想マシンがおおよそ 5,000、FI クラスタ数が 6 にも増加したため、もっと全体を可視化できるビューアーを求めています。」

インフラ部 サーバインフラグループの伊藤真一氏は「Cisco UCS Manager は高機能で便利ですが、何でもできる一方、アラートが上がった際にどのクラスタの FI に入るのかを人が判断する必要があります。限られた人員でスピーディに対応するには、もう 1 レイヤー上の管理ツールがあれば、と感じていました。」と話します。

これを受けて、シスコはサーバ増強のタイミングでクラウド上からオンプレミス サーバ システムの一元的な管理を可能にする Cisco Intersight を提案。2018 年 8 月より、運用が開始されました。

Cisco Intersight は 大規模な仮想環境の全体を 可視化できる管理ツールです。

ソリューション

一元的な監視と障害発生箇所の特定に有効

伊藤氏は従来活用している Cisco UCS Manager との違いについて次のように説明します。「Cisco Intersight はどのクラスタなのか、を気にすることなく、1 つの入り口から全体を俯瞰して障害箇所を見つけることに適しています。Cisco Intersight だけでは細かな設定変更が行えないという点も、責任の切り分けという観点で有効です。」

DMM では障害発生時に一次対応担当者が Cisco Intersight で障害発生箇所を特定し、設定変更など実際の対応は専門スタッフが Cisco UCS Manager で行う、という切り分けを行っているとのこと。

プロアクティブ対応を可能にするフォーキャスト機能

伊藤氏は障害発生前に予兆を知らせる、フォーキャスト機能にも期待を寄せています。「各パーツのヘルス状況が把握できれば、障害を予期して早めに切り離す、といった事前対応が可能になります。」

高橋氏は「ハードウェアの不調によるサービス停止は許されません。Cisco Intersight により障害の予兆がわかり、これまでよりもさらなるプロアクティブな対応が実現することは大きなメリットです。」と話します。

Cisco Intersight

新時代のコンピューティングに対応するための適応型管理

Cisco UCS は、コンピューティングの簡素化および自動化を実現させ、システム管理者の日常業務を容易かつ効率的にしました。そして今、Cisco Intersight クラウド ホスト型管理プラットフォームの登場により、シスコの適応型管理ビジョンが Cisco UCS および HyperFlex システムにまで拡大され、運用管理も新しい時代へと進化しています。



特長



クラウド ホスト型のシステム管理

シンプルで一貫したインフラストラクチャ管理が、オンプレミスのツールや機器を管理する煩雑さを排除します。Intersight は容易に拡張ことができ、頻繁に更新があってもユーザーへのインパクトはありません。



分析と機械学習

Intersight のレコメンデーション エンジン、実環境に対してより効果的で有用なインテリジェンスを提供します。レコメンデーションは、シスコの専門家が継続的に行っている分析と学習によってもたらされます。



いつでも利用可能なプロアクティブなサポート

強化された機能と、Cisco テクニカル サポートチーム (TAC) との緊密な連携により、より効率的なサポートが可能になります。Intersight は、ファイルの送信を自動化してトラブルシューティングを迅速化します。

機能

- Cisco UCS および HyperFlex をサポート
- グローバルでの状態とインベントリのモニタリング
- ユーザによるカスタマイズが可能なダッシュボード
- ユーザによるタグ付けと検索機能
- 管理対象に合わせた管理ソフトウェアの起動
- サービス プロファイルによるポリシーベースの構成
- リモート管理と仮想 KVM のコンソール起動
- 定期更新を備えたファームウェア管理
- 認定システム互換性のチェックとアップグレードの推奨

結果～今後

Cisco Intersight は導入から数ヶ月が経過し、お客様サービス提供の安定化に貢献している。今後、Cisco UCS Manager の持つ豊富なドリルダウン機能やグラフから必要なものを Cisco Intersight に連携させるなど、カスタマイズによってさらなる利便性向上を目指すとのことです。今後の方向性とシスコへの期待について高橋氏は次のように話します。

「クラウド活用と推進が会社としての方向性である中で、適材適所でクラウドとオンプレミスの役割分担を検討しています。社内もクラウド ネイティブ世代が増えており、開発者にはサーバの設定などを意識させず抽象化して、IaaS 的に提供するのが目標です。シスコには今後もマルチ クラウド、ハイブリッド クラウド環境の実現に向けた、ソリューションに期待しています。」

その他の詳細情報

Cisco Intersight の詳細は www.cisco.com/jp/go/intersight を参照してください。

合同会社 DMM.com



DMM.com

所在地 東京都港区六本木三丁目2番1号
住友不動産六本木グランドタワー

最高経営責任者 片桐孝憲

設立 1999年11月17日

資本金 10百万円

従業員数 1,597人

業務内容 デジタルコンテンツ配信事業、通信販売事業、
オンラインレンタル事業、インターネット接続事業、
オンライン英会話事業、モノづくり支援事業、
太陽光発電事業、その他

URL <https://www.dmm.com/>

総合エンタテインメントサイト「DMM.com」を運営。会員数は2,900万人を突破。動画配信、FX、英会話、ゲーム、太陽光発電、3Dプリンタなど40以上のサービスを展開。沖縄での水族館事業参入、ベルギーでのサッカークラブ経営など、様々な事業を手掛ける。また2018年より若手起業家の支援を強化、「DMM VENTURES」による出資や、M&Aなどを展開している。

©2019 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は2019年1月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー
<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先